

キリスト教学校教育同盟

第 65 回学校代表者協議会 開会礼拝・講演記録

後藤田典子 高橋和也 村上民

自由学園が 2003 年より加盟しているキリスト教学校教育同盟の第 65 回学校代表者協議会が 2023 年 11 月 3 日に学園を会場に開催され、57 法人 96 名が参加した。開会記念礼拝を後藤田典子（全学教諭キリスト教）、その後の講演「自由学園創立 100 年のあゆみとこれから」を高橋和也（学園長）、「変革期にこそアーカイブズを」を村上民（資料室）が担当した。ここに要旨を再録する。なおこれらは「キリスト教学校教育」770 号（2024 年 1 月 15 日）に収録されたものを一部改訂したものである。

1. 開会礼拝説教「真理はあなたたちを自由にする」

後藤田典子

「真理はあなたたちを自由にする。」本学園の名前は、この主イエスの御言葉に礎を置いています。日本の社会を良くしたいと願った創立者羽仁もと子は、キリストお一人を先生にする真の人間教育をめざしました。校歌は「天地治らす、主をば讃えよ、御手になりたる万のものよ」と歌い出し、2 節は「見よ、火の柱 雲の柱の、我らの前に常に進むを」と始まります。自由人へ向かう出エジプトの旅路が思い浮かぶ歌詞で、「自由をめざして」との題も付けられており、学校生活を通して励む目的がはっきりしている校歌です。

創立 100 年を越えても創立者の意志が継がれ、たたずまいも保っている学園ですが、次の時代へ向かう転換期に立っています。改めてこの転換地点に立って聖書を読みますと、あの御言葉を含む全体が目に入ってきます。主はおっしゃっていたのです。「わたしの言葉に留まるならば」という前提条件です。誰でも自由になれるわけではない、条件があるのです。御言葉を記録したヨハネは、十字架を目前に逃げ去った他の弟子達とは異なり、公生涯をずっとご一緒に最後まで留まっていた弟子でした。その彼が書き残した「留まるならば」との一言は重たい条件、今更ながらドキリとさせられます。不安になります。

しかし、ヨハネが書いた福音書を終わりで読みますと、最後・復活なされた主の繰り返し語られた言葉「あなた方に平和（平安）があるように。」が記されています。主は不安に怯える群れに近づき慰め、さらに大切な務めへ派遣する・前向きにさせる、との締めくくりなのです。福音書の最後は、どのような弟子も条件を満たした弟子として、一人ひとり、またその一群全体も祝福されているのです。

学校の真の創立者は、私を・私達を祝福なさるキリストです。大切なキリスト教教育の務めに派遣してくださるキリストです。各校に与えられている御言葉（スクールモットー）を胸に、それぞれの転換期を越え次の時代へ、信じて歩み出して参りましょう。

2. 講演「自由学園創立 100 年のあゆみとこれから—建学の精神と学校アーカイブズの役割—」

高橋和也

講演では自由学園の教育について、「Ⅰ 自由学園の創立理念とその歴史展開、Ⅱ 中高の共生共学化に向けた取り組み、Ⅲ 全学的な学校改革の展開」を中心に、生徒の言葉も交えつつ紹介した。本稿はその概要である。

自由学園は 2021 年、創立 100 周年の節目を迎えた。これを機に 2018 年、学校改革推進室を設置。創立の原点を確認しつつ、教育実践の意義を問い直し、現在、学校改革を推進している（「キリスト教学校教育」768 号掲載）。来年 2024 年にはこれまで別学であった女子部・男子部（中高）の共学化を予定している。

この改革に先立ち 2002 年から年史編纂に取り組み、2021 年に『自由学園一〇〇年史』を刊行。年史編纂作業と学校改革を同時期に行ったことで、建学の精神の確認しつつ、新たな時代の学校づくりに向かっての歩みを進めることができたことは幸いであった。

自由学園の校名の「自由」はヨハネによる福音書 8 章の「真理はあなたたちを自由にする」に由来するが、創立時この校名の意味を正しく理解し励ましたのは創立者夫妻の信仰の師である植村正久だった。植村は自由学園創立後も礼拝司式等、支援を惜しまなかった。文部省（当時）の指導によらない各種学校として出発した自由学園であるが、戦

争が始まるとこの校名ゆえに軍部等から様々な圧迫を受けた。その対応に苦慮しつつも校名変更せずに敗戦を迎え、日本中の価値観が 180 度転換する中で、自由を掲げる教育の矜持を保って戦後の歩みに踏み出すことができたことは、現在の私たちに大きな励ましを与えている。

建学の精神「思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ」は、それぞれ「精神・身体・霊性」に対応し、知識のみ、技術のみに特化する教育ではなく、人間全体の発達を目指す教育であることを示している。

グローバル化や地球規模の環境問題、ジェンダー平等や性の多様性の問題、急速に進歩する AI への対応など、変化する社会課題への取り組みとして、「国際化センター」「環境文化創造センター」「いのちと性の学び委員会」を立ち上げ、共生社会の実現に向けて一貫教育を通じた取り組みを進めている。

中高では各人が自ら問いを立て課題に取り組む「探求」、平和・人権・環境などの社会課題に教科横断的に取り組む「共生学」、「キリストを知る・自由学園を知る」という目標のもと、キリスト教と自校史を学ぶ授業「TLP」を新設した。

社会が複雑化し知識や技能が高度化する時代、聖書に基づき生きる価値基盤をいかに確かなものにしていくかということはキリスト教学校の使命である。日々の生活の中で生まれる「いかに生きるか」という根源的な問いに対して、礼拝・聖書の学びを土台に、授業・講義、共同生活、学外活動など、すべての学びを通じ、生きる指針の土台が築かれることを願っている。そしてこの小さな実践を通じて、これからの世界をよりよく変えていく人が育っていくことを願っている。

3. 講演「変革期にこそアーカイブズを使い続け、考え続ける」 村上民

キリスト教学校のアーカイブズとその学校の「建学の精神」とはどのような関係にあるでしょうか。今日は、現代に生きる私たちが、建学の精神とその展開を「再考」し「再出発」するための原材料としてアーカイブズを使い続け、考え続けることについてお話しします。

自由学園アーカイブズの再構築

子ども自身が「自分の生(いのち)を経営する」、「生活」を教育の中心に据えてきた自由学園では、創立以来、生徒の自治活動の記録が豊富に作成されてきました。2002 年、それらを母体としつつ、より総合的な組織アーカイブズを

目指して自由学園資料室が発足。新たな資料との出会いや資料の読み直しのなかで、従来、様々な事情で忘れられ、見失われてきた人物、活動、考えなど多くの「発見」がありました。創立者を含め当時の人々が何を考えて、悩み行動したのかを、これら「選択されなかったもの」も含めて考えることによって、自由学園の歩みがより豊かにみえてきました。こうした「アーカイブズの再構築作業」が、自由学園 100 年史編纂の準備作業にもなっていました。

100 年史編纂事業と「学校改革」

2010 年、100 年史準備委員会が発足しました。「自己検証と社会発信」を掲げ、ひとつのストーリーに集約させるだけでなく長期的な検証に堪える資料公開を意識して、卒業生や元教員を含む学内メンバーで資料整理や調査に取り組みました。

ところで、自由学園では次の 100 年に向けて根本的に学校のあり方を問い直す「学校改革」プロジェクトチームが発足(2018 年)、「自己検証」の必要性からアーカイブズ資料への関心も高まりました。100 年史編纂事業の後半は学校改革プロジェクトと並行して推進された面がありました。

アーカイブズを使い続け、考え続ける

2021 年、書籍『自由学園一〇〇年史』とデジタルアーカイブ「自由学園 100 年+」を公開しました。これを単に受容するのではなく、次代を担う自由学園の構成員が自らを問い直すための材料にしていけるかが、次の課題となります。生徒学生、教職員や保護者が自由学園アーカイブズそのものを自分の目で確かめ、もう一度自分で考え、活力を得ることを目指して、今年度からアーカイブズを用いた授業や各種研修が始まっています。

アーカイブズは人間の、組織の歩みの生々しい記録であり、人々の理想、現実との格闘、失敗と挫折の記録をその中に含んでいます。これらアーカイブズを、思考のための原材料として誠実に敬意をもって読み直すとき、私たちは人間の弱さと強さを学び直し、自分自身が今、ここでキリストを頭とする教育のわざに関わる意味、そして共に働く仲間を持つ意味を確かめることになるでしょう。大人も子どもも、一人ひとりのそうしたアイデンティティの確立が、自らの属するコミュニティを継承・発展させていくことにつながることに、私たちは希望をもっています。